

令和4年度事業報告

愛の浜園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) グループホームフレンド3の再建への対応

ア. 外部環境

令和3年1月に発生したグループホームフレンド3の火災のために、利用者6名は障害者支援施設愛の浜園（以下：施設）にて生活を送っています。しかしながら、施設側の定員オーバー等により、利用者6名及び施設利用者がふだん2名で利用している居住棟に3名が生活することとなり、双方に窮屈な生活となるため、精神的にも負担となっています。

イ. 重点課題に対する取り組み

建設候補地を奄美病院横の公益財団法人慈愛会の所有地に選定し、財団側と協議を行いました。

その結果、この場所に鉄筋4階建てを協同で建築し、その1階部分に本園のグループホームが入り、2~4階を財団の施設が使用することとなりました。

また、本園で使用する土地等についても、所有権登記が必要となったため、この土地の一部を持分登記で取得することとなりました。この手続きを進めています。

グループホーム建設までは時間を要することから、これと並行してウィークリーマンションを借り上げて、4名の利用者を居住させ、今後新たな拠点で必要となる地域と関わりのある生活に慣れていただく訓練をしています。

(2) 行政や医療機関との連携強化

ア. 外部環境

愛の浜園においても、利用者の高齢化や重度化が進み、本園だけでは支援が困難なケースも散見されます。障害福祉サービスの利用だけでなく、介護や医療など関係機関との連携がさらに必要です。

高齢化により、知的だけでなく身体の障害も重なり、利用者の障害特性に応じたサービスの提供が難しく、施設入所を希望している障害者の要望に対応できないなどの問題が発生しています。

イ. 重点施策に対する取り組み

本園では、行政、包括支援センターおよび医療機関等と連携して、利用者の特性を把握したうえでどのような福祉サービスが最も相応しいか、複数回の協議を行い対応しています。

これまでも、本園の利用者が、加齢に伴い認知機能などが著しく低下し、さらに食欲不振となり、本園では対応ができず医療機関に入院し、介護サービスへ移行することとなりました。

末期がんの利用者は、体調を崩し入院を繰り返していましたが、最後まで本園利用を希望されていたものの、医療機関で最期を迎えました。ご利用者の希望や本人の体調などに留意しながら、病院などとの連携をしながら支援を行ったことで、最後まで「愛の浜園では笑顔で過ごせた」とご家族にも高い評価をいただきました。

2. 各事業所の取り組み

(1) <施設入所支援> 定員：40名

8月中旬および年末年始に、多くの利用者や職員が新型コロナウイルスの陽性となりました。この間、高熱を出すなど体調不良とはなったものの、重篤なケースがなかったことは幸いでした。周年を

通じて、法人の感染対策および本園で実施していた、マスク着用、手指消毒、使い捨てガウン等の利用、ゾーニング、使い捨て食器による居室での食事提供など、様々な感染症対策を実施しました。

これらに留意しながら、行事や余暇活動（ドライブ、ビデオ鑑賞、カラオケ等）を実施しました。

ただ、地域行事は、昨年、一昨年に続いて、多くが中止となり、地域の皆様との交流などができませんでした。外出や外食については、感染状況（警戒レベル等）を参考にしながら、感染対策を工夫して実施しました。

施設入所事業（前年比収入：+1,329,444円）

計画	実施内容	反省	課題
<ul style="list-style-type: none">・日常的な生活の支援（食事介助、入浴介助、排泄介助、余暇活動、相談等）を行い、日々充実した生活が送れるよう、安全安心な生活を提供する。・利用者の意思や健康面を大切にし、本人とご家族のニーズやスキルを高め達成するために、日中利用する事業所と連携を図りながら支援する。・ゆったりと楽しい環境の中で生活が送れるように取り組んでいく。	<p>定員 男性：20名 女性：20名 計 40名 3/31 時点入所 男性：20名 女性：18名 計 38名</p> <ul style="list-style-type: none">・生活支援 食事、歯磨き、排泄、洗濯、入浴、移動介助、見守りおよび声掛け・日常生活における相談、助言・余暇支援 外出支援（外食、買物） ドライブ、カラオケ、DVD鑑賞など個々に合わせた余暇道具の提供・個別支援計画に沿ったスキルアップ支援・健康管理 毎朝の検温、個別のバイタルチェック、入浴時の身体チェックおよび塗薬支援感染対策（手洗い、嗽、マスク着用、手指消毒の声掛けや促し、換気、消毒などの環境整備）	<p>個別支援計画を基に、感染症対策を行いながら一人ひとりのニーズに合わせた支援を行った。 8月から9月にかけてコロナウイルスが施設内で蔓延し、1ヶ月ほど感染の対応に追われた。食事などを含め、各居室で過ごす生活が長かったが、状況を理解して生活できていた。家族には電話連絡にて状況説明などを行った。 ドライブ、カラオケおよびDVD鑑賞などの提供はできたが、外出する機会が少なかった。 亡くなる利用者が続き、一日一日を意識して過ごす大切さを感じた。 虐待を疑われる不適切な支援があったため、日々の自分の支援を振り返る事が大切であり、研修会で支援内容を共有確認し改めて見直した。</p>	<p>感染症の状況を確認し、感染対策を行いながら外出を計画していく。</p> <p>虐待に繋がらないよう、皆で意識し自分の支援を振り返りながら利用者支援にあたる。</p> <p>研修を受講しながら利用者との関わり方を学ぶ。</p> <p>腰痛予防をしながら、利用者、職員ともに負担のない支援を心がける。</p> <p>個別支援計画に沿った支援を基本にスキルアップ支援を行い、利用者の喜びに繋げるよう支援していく。</p>

(2) <生活介護事業> 定員：52名

これまで同様、班別活動（ミラクル班・サポート班・スマイル班・チャレンジB班）、生産活動（陶芸）、クラブ活動、レクリエーションおよびヘルスタイムを実施しています。外出支援は、感染状況を考慮し、感染者が少ない時期を選んで実施しました。不特定多数の人が集まる場所への外出はできるだけ控えるとともに、外食でも混まない時間を選ぶなど配慮しました。

軽い運動を全体で取り組むために、今年度もラジオ体操を行いました。知名瀬海岸のゴミ拾いを継続するとともに、ジャンベ演奏活動や音楽療法など、利用者のニーズや希望に応じた支援を行いました。

生活介護事業（前年比収入：△1,124,500円）

計画	実施内容	反省	課題
・班別活動を中心、クラブ活動、レクリエーション、外出支援および年間行事等を計画する。	生活介護利用者 定員52名 生産活動、班別活動、全体活動、クラブ活動、ヘルスタイム、レクリエーション、音楽療法、美化活動、外出支援、ボランティア活動、年間行事実施	午後班活動では、トンネルや運動公園など場所を変えてウォーキングや散歩に取り組み、気分転換を図りながら体を動かす事ができたが、園外に出る事で転倒や歩行速度の違いから把握が難しいと感じた事もあった。	・班別活動の内容の見直しと利用者配置の検討（高齢の方の活動参加の仕方や内容の検討）
・班別活動では、運動やリビリ、創作、農芸、洗濯、掃除等、利用者が楽しく取り組み、本人の要望や力を発揮しながら意欲的に過ごせる時間を提供する。	生産活動班（陶芸班）…陶芸作品作り ミラクル班…花苗植え、花壇の除草作業、花に水かけ サポート班…ウォーキング、ドライブ、生活支援、搜索活動 スマイル班…リハビリ、健康体操、身嗜み、ドライブ チャレンジ班…シーツ交換、食堂掃除、陶芸販売、棟内清掃、洗濯物	・チャレンジ班はエプロンを着用することで、活動への意欲を高める事ができた。	・活動場所や利用者の休憩場所の確保
・高齢の方や重度利用者の方には、体調に合わせて、施設入所事業所と連携を図りながら、外部資源も活用し、地域の行事に参加するなど、利用者の希	午後班活動…園外散歩、ウォーキング、体操 全体活動…美化活動、健康体操、花苗植え、ジャンベ、年間行事 クラブ活動…ドライブ、カラオケ、ウォーキング、レクリエーション、チャレンジヘルスタイム…外部講師による健康体操、ストレッチ、ウォーキング、リハビリ 音楽の日…外部講師による音楽活動（楽器演奏、歌など） レクリエーション活動…運動、歌、踊り ボランティア活動…海岸清掃、町内のゴミ拾い 外出支援…利用者、家族の希望により外出	・職員の体制が整わらず、班別活動の配置が難しい時は、全体活動に切り替え、お楽しみとしての新たな取組ができた（カラオケ機材内蔵の健康新体操などの活用もできた）。 ・利用者が楽しみにしている外出支援や外部講師の活動は感染症対策のため、取扱い。	・感染対策を行ながら外出支援を計画していく。 ・入浴時間や入浴の曜日を個別に検討していく。

望やニーズに応えられるよう計画的に取り組んでいく。	(カット、食事、買物、カラオケ、ドライブ等の利用者のニーズに応じた外出)	り組めない月もあつた。	
---------------------------	--------------------------------------	-------------	--

①施設利用状況					
[単位：人、日 () 書きは前年度実績]					
	定員	在籍	欠員年間延日数	外泊者 年間延日数	15人 (13)
男	20	20 (20)	45	90日 (105)	
女	20	18 (19)	200	入院者 年間延日数	3人 (4)
計	40	38 (39)	245		155日 (224)

②年齢構成

[単位：人、歳 () 書きは前年度実績]

	18歳以上 20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 60歳未満	60歳以上 65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上	計	平均年齢
男	0 (0)	5 (6)	9 (9)	3 (2)	2 (3)	1 (0)	0 (0)	20 (20)	49.6歳 (49.4歳)
女	0 (0)	3 (5)	6 (6)	4 (3)	5 (2)	0 (3)	0 (1)	18 (19)	55.9歳 (53.3歳)
計	0 (0)	8 (11)	15 (15)	7 (5)	7 (5)	1 (3)	0 (1)	38 (39)	52.75歳 (51.35歳)

③障害区分・施設入所

[単位：人 () 書きは前年度実績]

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (4)	8 (5)	9 (11)	20 (20)
女	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (6)	3 (3)	11 (10)	18 (19)
計	0 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (10)	11 (8)	20 (21)	38 (39)

④障害区分・生活介護

[単位：人 () 書きは前年度実績]

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男	0 (0)	0 (0)	2 0	6 (10)	12 (10)	10 (11)	30 (31)
女	0 (0)	0 (0)	1 (2)	8 (5)	6 (6)	11 (10)	26 (23)
計	0 (0)	0 (0)	3 (2)	14 (15)	18 (16)	21 (21)	56 (54)

(3) <就労継続支援B型事業> 定員：18名

就労継続支援B型事業（前年比収入：+1,365,262円）

計画	実施内容	反省	課題
<p>障害者総合支援法に基づき、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に、生産活動の機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識及び能力の向上に必要な訓練等の福祉サービスを供与することを目的とする。</p> <p>[作業種目]</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託事業（ストックヤード、知名瀬港トイレ清掃業務）、大島紬織、農業、手芸など <p>[活動内容]</p> <p>（生産活動）利用者の個々のニーズにあった作業提供をする</p> <p>その中で作業の知識や能力向上、生活のリズムの安定に努める。</p> <p>（相談支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリングを実施 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、検温や手洗い、うがい等の感染症対策を徹底した。 コロナ陽性者等が発生した際は、同事業所施設、グループホームの利用者は在宅での作業に切り替えた。 ストックヤードの委託作業を毎週月～金曜日、港公園清掃は週3回、月・水・金に実施した。 地域からの委託作業として、出荷前のトケイソウ磨きを受託し丁寧に取り組んだ。 12月からは季節ごとの手芸品を作成、販売した。 9月及び3月にモニタリング、4月及び10月に計画相談を実施した。 工賃は毎月5日に支給した。 地域との交流は、コロナ禍で中止となった。 <p>令和4年度就労B総収入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ストックヤードの利用者、職員に作業中の怪我があった。今後は、安全対策を怠らないよう留意しながら作業に取り組む。 就労Bの手芸の充実を図るために、職員と話し合いながら検討、実施した。 昼食の内容の変更を行った。健康面に配慮しながら、看護師や栄養士、在宅や施設、グループホームの相談員と検討しながら今後も利用者に喜んでいただけよう支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の定員18名に対し、現員数は13名なので、作業内容の見直しをしていく必要がある（農業に携われる利用者が減っている）。 利用者の高齢化が進み、ニーズに合わせた支援や作業内容の提供が必要である。 新たな利用者を開拓するため、見学や体験の受け入れ方や、送迎の範囲、時間帯を検討するとともに、相談員との連携を強化する。 在宅ワークの内容検討 在宅利用者の感

<p>し、個別支援計画をニーズに沿って作成する。日常生活、対人関係、健康面の相談支援を行う。毎月5日に工賃を支給するとともに、工賃を、6か月に1回工賃を評価し見直す。(余暇活動・レクリエーション)</p> <p>季節に合わせたレクリエーション、クリスマス会および運動会などの行事にも参加する。</p>	<p>分別作業：5,230,860円 農業：472,400円 公園清掃：256,800円 手芸・陶芸・紬：833,590円 計：6,536,850円 (前年度比△375,760円)</p>		染症対策
--	--	--	------

(4) <短期入所・日中一時支援>

在宅で生活している利用者、ご家族の負担軽減や、緊急時等に安心して利用いただけるように体制を整えながら、日中、夜間における一時的な見守りや日常的に支援が必要とされる利用者ご家族の負担軽減、また本人の社会との繋がりや居場所がない場合の支援の受入を行います。

短期入所(前年比収入:△2,207,847円) 日中一時(前年比収入:+316,896円)

計 画	実施内容	反 省	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で生活している利用者に、家族の負担軽減や緊急時の場合に、安心して利用して頂けるよう体制を整え提供する。 ・障害児者の日中における一時的な見守りや日常的に支援が必要とされる利用者の負担軽減を図るとともに、社会との繋がりや居場所がない場合の受入れを行う。 ・利用者のニーズあった日課や余暇活動サービスを提供する。 ・短期入所においては、個別支援計画に基づき、支援に取り組む。 ・必要に応じて連絡を取り、ニーズに応じた取り組みを行う。 ・毎日体調確認を行い、体調不良時には、その都度家族と連携を 	<p><短期利用></p> <p>利用延日数：803日 (前年度：1,815日)</p> <p>利用者： 男性9名 女性7名</p> <p>契約人数：16名 (前年度：15名)</p> <p>理由： ・在宅での生活が難しい方の利用 ・家族の負担軽減 ・安全面の確保 ・利用者本人の希望</p> <p><日中一時></p> <p>利用延日数：441日 (前年度：289日)</p> <p>利用者：</p>	<p>・園内で感染症が蔓延し暫くの間受入ができるない時期があった。 ・長期利用の方方がおり、他に利用したい利用希望者がいても受入ができない時もあった。</p> <p>・ご家族の希望にはできるだけ応えられるよう調整を行った。 ・障害児の受入に対して他の利用者が喜んでいた。その場の雰囲気が明るくなった。</p> <p>・感染症対策のため、施設見学が自由にできず新規の場合は利用予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の利用者が増えているため、受入体制を出来る範囲で整え利用者側にも支援員側も負担がないようしていく。 ・特性の強い利用者の受入(他事業所との連携をとり、支援の仕方のアドバイスを確認する)。 ・入所してい

図り対応する。 ・施設見学等の要望があれば、日程調整を行い実施する。 ・写真等で所持品を記録し保管や管理を行う。 ・利用者の体調不良時や、施設での感染症発生時に家族と連絡を密にして対応を検討する。	男性 7 名 女性 2 名 契約人数：9 名 (前年度：10 名)	の場合のみ見学を実施した。居住棟に入れない時には、写真や映像で確認してもらう時もあった。 ・私物の返し忘れや扱い方に関して、家族から苦情があり謝罪することがあった。	る利用者が高齢化、重度化していく中で受入ができるかどうかの判断
---	---	---	---------------------------------

短期入所、日中一時支援の利用状況

[単位：人、日 () 書きは前年度実績]

	契約人 数	利用延日数	理 由
短期入所	16 (13)	803 (1,551)	在宅での生活が難しい方の利用（安全面の確保など） 家族の虐待対応ケース
日中一時支援	9 (6)	441 (360)	ご家族の介護の軽減 本人の希望

(5) <フレンド> 定員 22 名

町内会行事、地域の行事は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策のため中止となりました。

フレンド 3 の火災後、6 名の利用者が施設での生活を余儀なくされていましたが、令和 4 年 8 月からウィークリーマンションを借り上げ、4 名の利用者が生活を始めました。

この地域には、コンビニや理髪店などもあり、土・日を利用しての買い物など、利用者が積極的に地域生活が経験できる環境にあります。利用者の余暇の過ごし方の幅が広がり、ニーズの応えられるようサポートしていきます。

(前年比収入：+3,204,776 円)

計画	実施内容	反省	課題
<p>世話人、支援員、各事業所間の職員との連携を図り、情報を共有し、個別支援計画に沿って利用者支援に取り組みます。</p> <p>余暇支援、外出支援、地域の行事などへ積極的に参加し、地域の一員としての自覚を持って生活できるように支援します。</p>	<p>毎月、支援員、世話人との全体会議を行い、利用者支援、健康面、ホーム全体の課題、ヒヤリハットの話し合い、改善点などを話し合い、情報共有し、支援した。</p> <p>全体会議の後に、利用者の自治会を開き、利用者への申し送り、行事の連絡、園への要望、三賞等の意見を出してもらい要望などは改善できるところは改めた。</p> <p>火災後施設で生活していたフレンド3の利用者（6名）のうち4名を、ウィークリーマンションを借り、住まいの場とした。</p> <p>土・日の余暇、外出支援は、コロナ感染症のため、実施できない月もあったが、計画を立て実施した。</p> <p>利用者の健康管理においては、月1回の健康相談で薬の調整、相談を行った。定期受診、健康診断、奄美市ガン検診、新型コロナワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、胃カメラ、大腸ファイバー等の検査を実施した。</p> <p>県障害者スポーツ大会に永田三十六さんが出場し、フライングディスク（アキュラリー）部門で金メダルを獲得した。</p> <p>島内1泊旅行を計画し、利用者7名が参加、職員3名が引率した。</p>	<p>大島支庁へ事故報告書1件（無届外出）、園内事故報告（無届外出、服薬ミス）、ヒヤリハット5件（怪我・服薬漏れ）、話し合い1件（薬の持たし忘れ）</p> <p>薬の与薬忘れ、持たせ忘れがあったが、大きな体調不良になる事はなく前年に比べ件数が減った（毎朝の朝礼の終わりに服薬間違いがないよう飲み込むまで確認するように呼びかけをした上で職員の意識向上につながった）。</p> <p>年末、年始にコロナに感染した（利用者9名、職員7名）</p> <p>職員が数名罹患したため勤務シフトのやりくりが難しかった。</p> <p>入院：白内障1名、痔の手術1名</p> <p>8月からウィークリーマンションに4名が引越したが男性職員の配置がなかなかできなかつた。退職した世話人の後任が決まらず、世話人配置ができず、世話人業務に支援員を配置している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理：定期受診、通院の引率、体調不良時の夜間帯の健康管理、バイタルチェック ・感染症が拡大したときは施設職員（夜勤職員）の巡回ができなかったため、フレンド職員で対応した。 ・服薬管理：薬のセットを確実にする。与薬時の確認を徹底する（名前、日付等）。 ・余暇支援、外出、外泊支援：外出時の事故、怪我に気を付ける。 ・利用者の人間関係：定期的にホーム替えを行う。 ・利用者の高齢化：定期薬服薬者数、食事療法が必要な利用者が多い。認知的な行動 ・フレンド3の再建 ・職員配置、勤務体制 ・設備の修繕

(6) <指定特定相談支援事業「ていだ」>

(前年比収入：+721,750円)

計画	実施内容	反省	課題
<p>現在の契約者へ誠意をもって対応します。</p> <p>各関係者との連携（事業所、病院、市町村、ぴあリンク奄美（基幹センター）等々）を強化します。</p> <p>地域貢献（契約者以外での対応（困っている人の相談、案内、紹介）を可能な限り実施します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *令和4年度の業務内容 <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者アセスメント、担当者会議 ・モニタリング会議 ・病院受診同行 ・退院カンファレンス ・事業所見学 ・事業所調整 ・相談、面談、訪問 ・相談部会、自立支援運営会議 ・主任相談支援専門員、医療的ケア児コーディネーターの資格取得 *令和4年度の実績 <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用計画 16件 ・更新計画 150件 ・モニタリング 344件 令和4年度の請求額 (9,279,160円) *全体の件数は193件と前年度より19件増えたが、コロナウイルスの影響で加算が取れず請求額は増えなかった。 	<p>今年度も「ていだ」は担当制をとらずに、チームで相談業務の仕事に従事しました。</p> <p>新型コロナウイルスの関係で、思うような訪問や担当者会議はできませんでしたが、ZOOM（パソコンでのリモート）で対応する等、業務の遂行に努めました。</p> <p>また、児童の計画相談にも力を入れ、件数が増えています。相談部会や定例会にも参加し、地域の事業所とも連携が取れました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・件数が増え利用者への丁寧な対応 ・事例や経験を重ね、更なるスキルアップを目指す

(7) <実習受入れ>

奄美看護福祉専門学校および大島養護学校の実習を受入れました。

奄美看護福祉専門学校の実習は5月16日から2名、6月21日から2名を受け入れました。

大島養護学校の実習は、10月31日から1名、11月7日から1名を受け入れました。

また、今年度初めて、鹿児島中央看護専門学校から実習依頼があり、11月8日と11月10日に、「地域や行政との関わり」に関して、本園の活動内容を紹介いたしました。

実習生所属先	実習期間	人 数	計（延人数）
奄美看護福祉専門学校	5月16日～5月26日（10日間）	男性1名、女性1名	20名
	6月21日～7月1日（10日間）	男性2名、女性0名	20名
大島養護学校	10月31日～11月11日（9日間）	男性1名	9名
	11月7日～11月11日（5日間）	女性1名	5名

計	34日間	6名	54名
---	------	----	-----

(8) <保健衛生>

8月と12月に施設内での新型コロナウイルス感染の拡大があり、感染症対策会議を頻繁に行い、さらなる拡大防止に努めました。また、12月には県の感染管理認定看護師による現地支援もあり、専門家からのアドバイスにより、アルコール消毒方法やゾーニング、手指衛生などを振り返る機会がありました。本園の課題についても相談する機会となり、とても参考になりました。

利用者の高齢化により、病院受診の機会も増えていますが、男性利用者につきましては、支援員の応援をもらいながら実施しています。

園内での定期的な歯科検診や訪問歯科を計画し、利用者の口腔ケアや義歯の調整、虫歯治療などを行っています。

令和4年度通院および入院治療の状況

(数値は年間延べ人数)

診療科		内科	精神科	整形外科	脳外科	外科	耳鼻科	皮膚科	眼科	歯科	婦人科	泌尿器科	合計
通院治療	令和4年度	91	403	12	0	7	12	31	18	312	10	8	904
	令和3年度	145	507	22	0	23	13	95	51	223	7	6	1,092
	増 減	△ 54	△ 104	△ 10	0	△ 16	△ 1	△ 64	△ 33	89	3	2	△ 188
入院治療	令和4年度	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8
	令和3年度	15	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	18
	増 減	△ 8	0	△ 2	0	△ 1	0	0	1	0	0	0	△ 10

3. 相談・苦情解決

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
利用者サービスに関する相談、要望および苦情を真摯に受け止め、誠意をもって対応します。 施設入所やグループホームの自治会および日常生活の中で、利用者と会話をする機会を	令和4年度件数：18件 (苦情内容)・(職員に)丁寧に歯磨き(仕上げ磨き)をしてほしい。・移動する時はバタバタ走ったりせず、ゆっくり移動するようにしてほしい。・自動販売機のコーヒーを増やしてほしい。・ネクターのジュースが欲しい。・朝ごはんにあと1品増やしてほしい(漬物だけじゃ嫌)その日によってワインナーや魚など多い日と漬物だけの日があり差がある。・食パンが食べたい。・焼肉が食べたい。・個人で余暇時間に作っているビーズ飾りや折り紙などをお披露目する展示会をしたい。・カラオケの時間を増やしてほしい。・飾り作りの時間を増やしてほしい。・ボール遊びがしたい。・伊勢海老が食べたい。・カラオケに行きたい。・焼肉、すき焼き、コロッケ、アイスクリーム、食パンが食べたい。・パンのメニューの日にスープの代りにサラダを付けてほしい。・カレーのルーがいつも同じものなので違うものが食べたい。・ラーメン	・生活介護の自治会、フレンドの自治会で要望として挙がった食事の件は、個別的な意見のか全体的な意見なのか把握が難しい。予算面、カロリ一面からすぐには対応できないものもある。 ・希望メニューの件は担当との外出時に対応できるものは検討	・引き続き、自治会での利用者の要望、苦情に対しては迅速に対応する。 ・保護者からの苦情を受け付けた部署での受付の表を提出してもらう。

<p>増やし、困 りごとや相 談事が解決 できるよう 努力しま す。</p>	<p>ンが食べたい。・パンの日に果物が入っているヨーグルトが食べたい。 6月23日：短期利用者から職員の声掛けに対し不愉快な思いをしたとの苦情尾がある。対応として職員から謝罪の電話をした。 11月25日：通所利用者の保護者より所持品が不足していた事と入浴後の垢すりの処理が悪かった事で苦情がある。対応として謝罪の電話をし、不足していた物をすぐに届けた。 12月6日：短期利用者から職員の声掛けに対し気分を害したとの苦情がある。対応として職員の声掛けの説明と謝罪をした。</p>	<p>してもらう。</p>	
--	--	---------------	--

4. 防災

計 画	実施内容	反 省	課 題
-----	------	-----	-----

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、様々な災害や時間帯を想定した各種訓練を行う。 ・年2回は総合防災訓練を行う（うち1回は消防署立会）。 ・年2回グループホームの避難訓練を行う。 ・毎月施設全体を見回り安全点検を行う。 ・災害や事件が発生した時には、施設で対策会議などを行う。 ・毎日各部署で火気、避難経路の点検を行う。 ・月1回コンセントの清掃を行う。 ・地域との連携を密にして、避難時協力体制を整える。 ・必要な防災用具の購入を進める。 ・福祉避難所として災害時には施設を開放し、奄美市と連携して住民の受け入れを行う。 ・緊急時に自家発電機や防犯器具を、職員全員が使えるよう操作の講習会を行う。 ・年1回救急救命講習を行う。 ・日本全国AEDマップに登録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種防災訓練を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○火災避難訓練（早朝2回、日中1回、夜間3回） ○総合防災訓練（通報訓練1回、通報・消火訓練1回） ○不審者対応：1回 ○地震・津波対策：1回 ○風水害対策：1回 ○GH避難訓練：2回 ・訓練実施後に係で会議を行い、色々な災害を想定した訓練内容を話し合った。 ・地元の救急救命士を招き、救急救命講習を行った。 ・毎月安全点検を実施し、園内の補修などに取り組んだ。 ・電気火災を防ぐため、月1回コンセントのホコリ清掃を実施した。 ・必要な防災用具を購入した。 ・自家発電機の操作説明会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所を設けた際に避難所の職員配置をどうするか検討する必要があった。 ・毎月の訓練後に気づいた点を各部署に通知した方がよかったです。 ・日中の訓練は職員が大勢いるので気持ちに余裕があるため、夜間、深夜の訓練を増やした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、スプリンクラーなど防災器具の設置を速やかに行って行く必要がある。 ・防災用品・備蓄品の購入を迅速に行う。 ・大災害を想定した避難計画を作成する。
--	---	--	---

5. 会議及び研修

研修を実施して、職員の障害支援や防災等の知識を高めスキルアップを図り、質の向上に繋げました。研修会等に参加できない職員には、資料配布あるいは申し送り等を行い、全員への周知徹底を図りました。

計 画	実 施 内 容	反 省	課 題
-----	---------	-----	-----

4月：人権の研修	4/5 利用者への給食試食会	・新型コロナウイルス感染防止に関する研修	・外部講師の講師料及び島外研修に関しては出張費用が多くかかってしまう。
5月：感染症対策研修会	4/26 人権擁護・虐待防止について		・多くの職員に有益な研修を実施していく必要がある。
6月：救急講習会	5/11 園内新任職員研修		・全職員が研修を受講できるシステムを構築する必要がある。
7月：自家発電の手順確認	6/15 危機管理室長による研修		・部署ごとに必要な研修があるのではないか。医務、事務、給食、支援員は必要な研修内容を次年度に実施していく（人権擁護など共通で受ける研修は全員必須）。
8月：リハビリ研修	6/27 年次有給休暇取得について		・シフトの関係で多くの職員に参加してもらうことが難しかった。
9月：感染症対策研修会、人権擁護研修	7/8 自家発電機の操作説明 8/2 園内新任職員研修	9/26 新型コロナウイルス感染拡大を受けての振り返り	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外部講師を招いた研修会ができないことが多かった。今後もオンライン研修なども活用していきたい。
10月：おむつの研修		10月 新型コロナウイルス感染拡大により中止	・職員の利用者支援についてのスキルアップに繋がる研修、制度や法律に関する知識習得に繋がる研修を今後も行っていく。
11月：腰痛対策研修会	11/7 園内新任職員研修		
12月：感染症対策研修会	11/24 救急救命講習		
1月：介護ロボット修 家族並びに施 員研修	12/24 法人施設合同研修会 (オンライン)		
2月：大島地区合同 修会、危機管理 講習会、GH事 修	1/26 腰痛予防研修 2/27 適切な支援を考えるグループワーク (1回目)		
3月：今年度の反 新年度に向けて の研修	3/27 適切な支援を考えるグループワーク (2回目)		

6. 年間行事

利用者の高齢化や重度を考慮して、行事内容を工夫し、多くの利用者が参加できる形にしました。

月	日	内 容	備 考
4月	1	新年度事業開始	(定員) 施設入所 40名 生活介護 52名 グループホームフレンド 22名 就労B事業所 18名

	4 5	関係機関新年度あいさつ 旧暦桃の節句	県大島支庁、奄美市役所 知名瀬海岸等で浜下れ
5月	1	創立記念日行事	年間努力賞贈呈、令和3年度活動ビデオ上映
	13	グランドゴルフ大会	雨天のため6/3に延期
	15	県障害者スポーツ大会	男性利用者1名がフライングディスクに参加
6月	3	レクリエーション(生活介護)	グランドゴルフ大会に代り三儀山体育館で実施
	5	ドライブ(就労B)	” ” 笠利町へ
	9	家族会総会	奄美文化センター会議室
	9	遠足	大和村国直海岸
	11	島内一泊旅行(～6/12)	施設入所利用者、笠利町・龍郷町
	25	” (～6/26)	グループホーム利用者、笠利町・龍郷町
7月	7	理事長来訪	
	9	慈愛会学会参加	松原充子副主任が事例発表
	15	夕涼み会	多目的ホール
8月	4	夏に親しむ	中庭で水遊びを楽しむ
	18	コロナワクチン接種	
9月	16	敬老会	多目的ホールにて敬老者を祝う
10月	17	夏の外出	8月に予定したが、園内でコロナが蔓延したため、時期をずらして計画を立て買い物や食事を楽しむ
	25	夏の外出	食事をテイクアウトして園内で提供する
12月	2	令和4年度指導監査	多目的ホール
	10	カラオケ大会&園内ハロウィン	多目的ホールにて仮装してカラオケ大会を楽しむ
	12	知根小学校学習発表会	ハンドベルなどの楽器演奏を披露した
	25	レクリエーション	三儀山体育館
	27	愛の浜園「感謝祭」	市民交流センターで陶芸品、工芸品を販売
1月	8	クリスマス忘年会	多目的ホール
	23	コロナワクチン接種	
	29	仕事納め	
2月	4	仕事始め	
	19	コロナワクチン接種	
2月	3	「節分」レクリエーション	多目的ホール
	7	花見遠足	大和村方面
	8	合同年の祝い	多目的ホール

7. 施設管理（設備投資計画）

主な設備投資計画（実施分）

- ・男性棟横フェンス設置（ブロック塀老朽化に伴う危険除去のための更新）
- ・スプリンクラー設置工事（多目的ホール、就労棟）
- ・介護用ベッド（老朽化に伴う更新）

- ・ガス給湯器（故障による更新）
- ・冷凍庫（故障による更新）
- ・居室用エアコン（塩害等による入替）
- ・パソコン（故障等による更新）
- ・長テーブル（老朽化に伴う更新）
- ・駐車場照明工事（新設）

8. 職員体制

令和4年度採用職員

正職員	契約職員	障害者雇用	計
1名	9名	1名	11名

令和4年度退職職員

正職員	契約職員	障害者雇用	計
3名	7名	0名	10名

令和4年度在職者数（令和5年3月31日現在）

正職員	契約職員	障害者雇用	パート	計
28名	34名	3名	1名	66名